

北部地域 療育センターだより

第5号

❖ 巻頭言

所長 今枝 正行

新学期、大きなランドセルを背負ったまなざし輝く小さな1年生が、上級生に手をひかれ登校する姿がなんともほほえましく、希望を感じさせてくれる季節です。子どもの笑顔は地域の宝であることをあらためて感じます。

当センターは発達支援の専門的相談機関として開設され、本年度10年目を迎えることができました。地域のみなさま、保育園、幼稚園、学校、保健所など関係諸機関のみなさま、そして何よりセンターを利用いただいたお子さんご家族のみなさまのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

かつて「療育」とは、「限られた施設で専門家が中心になって行う治療」をイメージしやすいことばでありました。しかし近年は、地域の関係諸機関の連携とサポートの輪の中で行われる、子どもと家族を主体にした発達支援へと転換してきています。一般には浸透していない「療育」の実質的なイメージを、実践の中でつくり地域の中に根付かせていくことを当センターは目指してきておりますが、この10年目はみなさまのご期待にお応えできていない点をしっかりと検証すべき節目の年と考えております。愛知県青い鳥医療福祉センターをはじめとする地域諸機関にお力添えいただき中、地域療育の一翼を担えるよう一層の努力をしてまいり所存でございます。今後とも変わらぬご指導とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

地域療育のキーワードは「連携」であります。近年、連携のあり方の考え方として「ノットワーキング、knotworking」ということばも登場してきています（Knotとは結び目のこと）。子どもの成長のライフステージごとに、登場する支援者が入れかわり、柔軟で流動的な協働をし、結び目作りをしていくこととされます。いわばライフステージに応じた応援団づくりといえましょう。本号では、より充実した地域でのネットワークの構築を目指し、連携のためにみんなで知っておきたいポイントを述べるとともに、昨年10月に連携をテーマに開催した「秋の講演会」について掲載いたしました。みなさまよりのご意見、ご批評をお寄せいただければ幸いです。

未曾有の大震災、大災害から1年がたちました。いまだ大きな苦難の生活を強いられている多くの方々に心よりお見舞いを申し上げます。被災地、避難地で新学期を迎える子どもたちの健やかな成長を祈り、心からのエールを送ります。

❖ ❖ ❖ より充実した地域でのネットワークの構築を目指して ❖ ❖ ❖

ライフステージにそった支援の入り口となる幼児期に焦点をあて、「発達が気になる子」の支援と連携のためにみんなで共有しておきたいポイントを医療の視点より述べたいと思います。

❖ それぞれの立場での困り感

「みんなと一緒にいたかった。でも、あわせて行動することは難しく、苦しくて教室から逃げてばかりの毎日だった」と保育園時代のことを話してくれた中学生がいました。また、育児を振り返り「成長の一過程と考えて様子を見るか、自閉症を前提に発達支援に参加していくか、二つに一つの決断がしきれず相談に行くのをためらっていた時期が一番苦しかった」とおっしゃられる親御さんもみえました。保育園や幼稚園が、親御さんよりも早い段階で発達上の問題に気づく場合もあります。気づきが確実に発達障害を意味するものかとの葛藤で相談にみえることもありました。もちろん困り感は千差万別であります。連携に重要なことは、違う立場の方の困り感への想像力を働かせ合うことだと思えます。

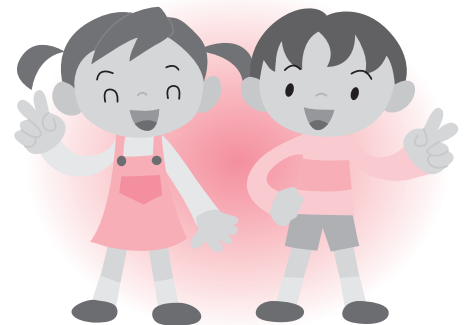


❖ なぜ発達障害の視点が必要か

大人は、子どもが成人期に向け、生活を営んでいく上で必要な経験を積み、必要な力をつけていくこと、そして自分らしく生きていくことができるように育児、保育・教育を行っていく必要があります。しかし発達障害のある方は、生活していればあたりまえに自然にできるはずの経験が、その独特な認知特徴のため、習得ができず未完成のまま大人になってしまうリスクがあるのです。一方、周囲には理解されにくい困り感をもつ生活の連続の中で、自尊心や自己有能感が育つことは難題であります。われわれ大人には、前者には「適応行動を教え続けていく姿勢」、後者には「少数派としての発達障害の世界を尊重する姿勢」をもって支援する必要があります。この二つを両立させながら支援するために発達障害の視点が重要になってくるのです。

❖ 診断・スペクトラム概念

現在はさまざまな程度の自閉症的特徴と知的水準を含む状態に対し、自閉症、アスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害と線引きしての診断がなされています。しかし近い将来、診断の境界線を論じるのではなく、定型発達との間にもつながる連続性に意味をもたせ、支援の共通性を重視し、自閉症スペクトラム障害にまとめる方向になる予定です。スペクトラムとは連続体という意味です。ともすると診断とは白黒ははっきり境界線をひくものと思われがちですが、発達支援を考えるときには「正常、異常」を含めて境界を意識してチェックする育児や保育ではなく、気になる部分を含めてまるごとそのお子さんの個性として育てる視点を大切にしたいと思います。これは診断を軽視するという意味ではなく、通常の育児、保育の中で難しさがあれば発達障害の視点を入れた関わりをしながら子どもの特性を把握していく過程が大切ということです。





保育・教育の中での発達支援

集団の中にいるだけで不安が強くなる子どもも多いです。みんなと一緒にあわせることが極端に苦手な場合もあります。ペースはみんなと違って、保育者やクラスメートに自分の個性が認められ安心して集団生活を送ることを優先することも大切だと思います。保育者との間でつくられる安心感と自信は、就学後の成長の大きな糧となります。自己認識の問題で揺れる成長の節が10歳くらいにあります。つまり周囲から応援されてきた体験を積んできている子どもは、自分の力と他者を信じる心で、頼もしく乗り越えておられるように思います。また「今度はこんなやり方で園と家庭と一緒に試してみましょう」など子どもの理解を親御さんと一緒に深めていく過程が、わが子の一番の理解者として、自信をもって学校と連携していくための大きな財産となります。

最後に

自分らしさの実現に向けてたくましくがんばっている子どもたちとご家族から、たくさんの大切なことを学ばせていただいています。紙面を借りて深謝いたします。

『秋の講演会』開催される!!!

10月5日に「発達障害の早期発見と早期支援～保健・医療と保育・教育、福祉の連携を考える～」をテーマに、上飯田南保育園の小川潤子園長をゲストにお迎えして『秋の講演会』を開催しました。東区・北区・西区の保健所、保育園、幼稚園から関係機関の皆さんが多数ご参加くださいました。

今枝所長からは、早期発見と早期支援の重要性や保育園・幼稚園には、発見機関としての役割のみではなく、医療だけではできない障がい認知のための親御さんへの支援を連携して行っていくことへの期待が語られました。

小川園長からは、「保護者への伝え方」についてお話しいただきました。集団での保育が難しい子どもに対しては、その子の様子を保育士の目線ではなく、その子の目線に立って見てみると、その子の気持ちがわかり、行動が理解できるようになります。そして行動が予測できるようになると、事前にいろいろな手立てができ、その結果、子どもも成長できる。親御さんには、その成長を伝えるとともに、保育園が困っていることではなく子ども自身が困っていることを伝え、親御さんの不安にしっかりと寄り添うことが大切であることなどを、具体例を挙げながら熱心にお話くださいました。



終りに

現在、東区・北区・西区では、定期的に、地域療育センター、保健所、保育園、幼稚園、区役所等の関係機関が区ごとに集まり、連携にかかる問題点や課題を話し合ったり、それぞれの立場や役割などについて勉強したりする機会を設けています。2月に開催した西区の懇談会では、小学校のご協力をいただき、通級指導教室などについて勉強をしました。

これからも、関係機関同士が今まで以上に有機的なネットワークを構築し、子どもたちがよりよい療育を身近な地域で受けることができるよう関係機関の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

地域のおともだちと交流しています

通園のクラスが、西区内の保育園に出かけて、一緒に遊ぶ体験をしました。

たんぼぼぐみ



保育園のお友だちと、保育園の園庭で遊びました。夏祭り前とのことで、盆踊りの練習の輪に入って、親子で体を動かして、楽しかったです。園児さんの方から声をかけてくれて嬉しかったです。

保育園の大勢のお友だちにびっくりした子もいましたが、遊びのコーナーに手をつないで連れて行ってきて、嬉しかったです。ボーリングが楽しかったです。また行きたいとの感想が多く出されました。



ひまわりぐみ

ちゅうりっぷぐみ



初めての場所で泣けてしまう子もいましたが、一緒にマルモ体操をして、楽しかったです。お絵かきや、おもちゃのやり取りで自然な交流ができました。

K保育園と

S保育園と

緊張してお母さんのそばで不安そうだった子も、シャボン玉コーナーでは打ち解けて、一緒に楽しめました。保育園での様子を見ることが出来て、保護者の方にも好評でした。



さくらぐみ

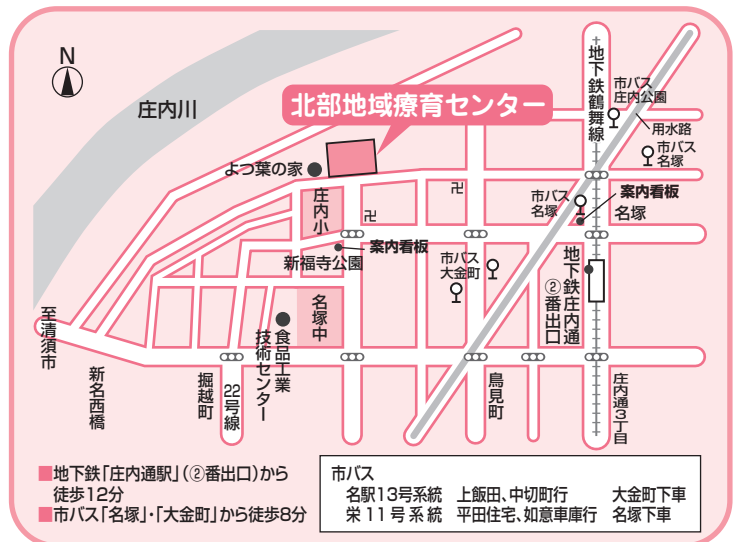
今回の行事実施にあたり両保育園には格別のご協力を賜りましたこと、この紙面を借りまして御礼申し上げます。

*** ボランティア募集中 ***

センターでは保育活動のお手伝いをいただける保育ボランティアを募集しています。

- ◎保育活動のお手伝い
(室内の活動や、園外への散歩など一緒に活動します)
- ◎センター行事のお手伝い
(運動会、夏まつりなど)
- ◎通園児の弟妹の保育
- ◎教材作りや環境整備など

短期間、短時間でもかまいません。現在、学生さんから主婦の方まで活躍中です。お気軽に下記までお問い合わせ下さい。



名古屋市北部地域療育センターだより 第5号

発行日 2012年4月1日

編集・発行 名古屋市北部地域療育センター

〒451-0083 名古屋市西区新福寺町2丁目6番地の5

TEL (052) 522-5277 FAX (052) 522-5279